



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 キムラタン

コード番号 8107 URL <http://www.kimuratan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役

(氏名) 浅川 岳彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 木村 裕輔

TEL 078-306-0801

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	2,209	9.8	3	—	△11	—	△16	—
23年3月期第2四半期	2,013	—	△47	—	△53	—	△73	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 △16百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △74百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△0.02	—
23年3月期第2四半期	△0.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	2,042	1,032	50.5	1.31
23年3月期	1,776	1,048	59.0	1.33

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 1,032百万円 23年3月期 1,048百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	3.9	60	8.7	40	18.1	20	725.8	0.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	790,093,101 株	23年3月期	790,093,101 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	82,262 株	23年3月期	82,112 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	790,010,903 株	23年3月期2Q	790,012,269 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる情報及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページの「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する情報	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報等	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
24年3月期第2四半期	2,209	3	△11	△16
23年3月期第2四半期	2,013	△47	△53	△73
増減率	9.8%	—	—	—

当第2四半期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）におけるわが国経済は、東日本大震災により停滞した生産の回復とともに、消費の自粛ムードも緩和されたものの、電力不足の影響や原材料の高騰、長期化する円高により、依然として厳しい状況が続きました。さらに、深刻化する欧州債務問題や米国経済の減速など、先行きの不透明感が強まりました。

このような状況下で、当社は、当期において直接的に消費者に向き合う「リテール」事業と、得意先に卸販売する「ホールセール」事業とに既存の業態を整理し、ブランド・組織・人員を2分する組織改編を行いました。両事業の収益構造の確立を目指して、それぞれの顧客から求められる製品とサービス、オペレーションを明確にし、専門化、運営力向上に取り組んでまいりました。

消費者と直接向き合うリテール事業は、既存のショップ業態に前期に開設した百貨店インショップを包含し、NET業態、今春よりスタートした百貨店 f a s ショップの3業態を中心に、サービスの質を高めながら客数の増加を目指してまいりました。得意先に卸販売するホールセール事業では、「価値が価格を上回る」商品開発に注力するとともに、得意先数の拡大に取り組んでまいりました。

売上高は、前年同期比 9.8%増の 22 億 9 百万円となりました。リテール事業では、ショップ業態及びNET業態の既存店が好調に推移し、また、新規店舗につきましても計画どおりに開設を実施いたしました。ホールセール事業では、既存ブランドの販売増に加え、バリュープライス企画商品の受注が大きく拡大いたしました。

売上総利益につきましては、売上増に伴い前年同期比 9.8%増の 10 億 31 百万円となりました。一方で、販売費及び一般管理費は、前年同期比 4.2%増の 10 億 27 百万円となりました。売上拡大による店舗家賃、物流費等の増加がありましたが、人件費等の固定費に大きな変動はなく、コスト効率が高まることとなりました。その結果、経費率は前年同期に対し 2.5 ポイント減少の 46.5%となりました。以上の結果、営業利益は 3 百万円（前年同期は 47 百万円の損失）となり、僅かではありますが、第2四半期累計で黒字転換することができました。また、経常損失は 11 百万円（前年同期に対し 41 百万円の改善）、四半期純損失は 16 百万円（前年同期に対し 56 百万円の改善）と前年同期に対し改善することができました。

リテール事業

ショップ業態では、品揃え、売場づくり、接客等のサービス力を高めるとともに、「値下げ率」のさらなる低減と「消化率」の向上を目指してオペレーション力の一層の強化に注力し、当社ショップの収益構造の確立を目指してまいりました。その結果、既存店ベースの売上高は 5.4%増と好調な推移となりました。また、当第2四半期累計期間において8店舗の開設と1店舗の閉店を実施し、当四半期末の店舗数は 145 店舗となりました。その結果、ショップ業態の全店ベースの売上高は、前年同期比 6.8%増の 12 億 30 百万円となりました。

今春より新規にスタートしました「f a s」ブランドの百貨店ショップは、本年4月に2店舗オープンし、7店舗の展開となりました。昨秋より先行したNETでの販売を含め、お客様の認知度アップに努めましたが、やや低調な推移となり、売上高は 61 百万円となりました。

NET業態の売上高は前年同期比 29.2%増の 1 億 28 百万円となりました。お客様のニーズに対応したサイトづくりに努め、また、アウトレット販売を強化した結果、購買客数、客単価の拡大に繋がり、好調な推移となりました。

以上の結果、リテール事業全体の売上高は前年同期比 5.6%増の 14 億 38 百万円となり、セグメント利益（営業利益）は 88 百万円となりました。

ホールセール事業

ホールセール事業では、価値ある製品の提供とともに、顧客の利便性の向上と新規顧客の獲得を目指したWEB受注システムの充実に取り組んでまいりました。これらの取り組みの結果、各得意先における既存ブランドの取扱い高の増加、バリュープライス企画の受注増に加え、新ブランドの投入効果により、GMS（総合スーパー）、専門店とも増収となり、ホールセール事業の売上高は前年同期比 18.9%増の 7 億 70 百万円、セグメント利益は 69 百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

	前連結会計年度末	当第2四半期 連結会計期間末	増減
総資産（百万円）	1,776	2,042	265
純資産（百万円）	1,048	1,032	△16
自己資本比率（%）	59.0	50.5	－
1株当たり純資産（円）	1.33	1.31	△0.02
借入金残高（百万円）	154	249	94

総資産は前連結会計年度末と比較して 2 億 65 百万円増加し、20 億 42 百万円となりました。主な増加は受取手形及び売掛金 77 百万円、商品及び製品 2 億 66 百万円等であり、主な減少は現金及び預金 51 百万円等であります。

負債は前連結会計年度末と比較して 2 億 81 百万円増加し、10 億 10 百万円となりました。主な増加は支払手形及び買掛金 1 億 91 百万円、借入金 94 百万円であります。

純資産は前連結会計年度末と比較して 16 百万円減少し、10 億 32 百万円となりました。これは四半期純損失によるものです。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の 59.0%から 50.5%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは 1 億 37 百万円の支出（前期は 1 億 27 百万円の支出）となりました。税金等調整前四半期純損失 13 百万円に対し、減価償却費 17 百万円、仕入債務の増加 1 億 91 百万円の増加要因がありましたが、売上高の拡大に伴う売上債権の増加 77 百万円、棚卸資産の増加 2 億 65 百万円の減少要因によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは 8 百万円の支出（前期は 15 百万円の支出）となりました。主な内訳は有形固定資産の取得による支出 14 百万円、その他の収入 7 百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは 94 百万円の収入（前期は 39 百万円の収入）となりました。主な内訳は短期借入金の増加 10 百万円、長期借入れによる収入 1 億円、長期借入金の返済による支出 15 百万円です。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績は、計画を上回る推移となりましたが、個人消費の先行きに不透明感が拭えないため、通期連結業績予想は前回予想（平成 23 年 5 月 13 日公表）を修正しておりません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	107	56
受取手形及び売掛金	695	772
商品及び製品	733	1,000
仕掛品	7	17
原材料及び貯蔵品	36	26
その他	33	25
貸倒引当金	△17	△19
流動資産合計	1,597	1,878
固定資産		
有形固定資産	80	79
無形固定資産	27	22
投資その他の資産		
破産更生債権等	445	431
その他	37	34
貸倒引当金	△411	△403
投資その他の資産合計	71	62
固定資産合計	179	164
資産合計	1,776	2,042
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	368	559
短期借入金	108	118
1年内返済予定の長期借入金	46	70
未払金	95	104
未払法人税等	8	5
返品調整引当金	14	9
ポイント引当金	3	4
その他	80	73
流動負債合計	725	945
固定負債		
長期借入金	—	61
資産除去債務	3	3
固定負債合計	3	64
負債合計	728	1,010
純資産の部		
株主資本		
資本金	903	903
資本剰余金	221	221
利益剰余金	△72	△88
自己株式	△4	△4
株主資本合計	1,048	1,032
純資産合計	1,048	1,032
負債純資産合計	1,776	2,042

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	2,013	2,209
売上原価	1,069	1,182
売上総利益	944	1,027
返品調整引当金戻入額	5	14
返品調整引当金繰入額	10	9
差引売上総利益	939	1,031
販売費及び一般管理費	986	1,027
営業利益又は営業損失(△)	△47	3
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	—
その他	1	4
営業外収益合計	1	4
営業外費用		
支払利息	5	6
その他	0	12
営業外費用合計	6	19
経常損失(△)	△53	△11
特別利益		
投資有価証券割当益	4	—
貸倒引当金戻入額	0	—
特別利益合計	5	—
特別損失		
固定資産除却損	—	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	17	—
訴訟関連損失	—	0
その他	3	0
特別損失合計	21	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△68	△13
法人税、住民税及び事業税	4	2
法人税等合計	4	2
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△73	△16
四半期純損失(△)	△73	△16

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△73	△16
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	—
その他の包括利益合計	△1	—
四半期包括利益	△74	△16
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△74	△16
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△68	△13
減価償却費	20	17
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	△5
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	5	△4
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	5	6
投資有価証券割当益	△4	—
固定資産除却損	2	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	17	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△162	△77
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△150	△265
仕入債務の増減額 (△は減少)	222	191
その他	△6	25
小計	△116	△122
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△6	△8
法人税等の支払額	△5	△6
営業活動によるキャッシュ・フロー	△127	△137
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△12	△14
無形固定資産の取得による支出	△0	—
その他の収入	0	7
その他の支出	△3	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	80	62
短期借入金の返済による支出	△40	△52
長期借入れによる収入	—	100
長期借入金の返済による支出	—	△15
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	39	94
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△104	△51
現金及び現金同等物の期首残高	123	107
現金及び現金同等物の四半期末残高	19	56

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社及び連結子会社は、主としてベビー衣料・子供服の販売を行っておりますが、全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める前掲のアパレル事業の割合が、いずれも 90%を超えているため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	リテール 事業	ホールセール 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,438	770	2,209	—	2,209
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,438	770	2,209	—	2,209
セグメント利益	88	69	157	△154	3

(注) 1 セグメント利益の調整額△1 億 54 百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、平成 23 年 4 月 1 日付で組織変更を行っております。これに伴い、新たな社内業績管理体制を構築したため、業績評価についても変更を行い、第 1 四半期累計期間より「リテール事業」と「ホールセール事業」の 2 つの報告セグメントといたしました。

なお、当該組織変更を反映した前第 2 四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、当該情報を作成することが困難であるため、当四半期連結累計期間について、前連結会計年度の区分方法により区分した情報を作成しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	四半期連結損益 計算書計上額
	アパレル 事業		
売上高			
外部顧客への売上高	2,209	—	2,209
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	2,209	—	2,209
セグメント利益	3	—	3

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。